週間感染症情報

2026年40週～42週　2026年9月28日より2026年10月18日まで

	40週	41週	42週
麻疹			
風疹			
水痘（みずぼうそう）	2		
ﾑﾝﾌﾟｽ（おたふくかぜ）			
百日咳	1		
溶連菌感染症	9	2	1
手足口病		3	
ﾍﾙﾊﾟﾝｷﾞｰﾅ		2	2
伝染性紅斑			
感染性胃腸炎	21	18	15
ロタウイルス(再掲)			
ノロウイルス(再掲)			
便アデノﾉｳｲﾙｽ(再掲)			
突発性発疹	1	1	1
伝染性膿痂疹（とびひ）	6	3	2
ヘルペス性口内炎			
ｱﾃﾞﾉｳｲﾙｽ感染症	1	5	2
RSウイルス感染症			
マイコプラスマ感染症	8	8	3
ﾋﾄﾒﾀﾆｭｰﾓｳｲﾙｽ			
インフルエンザ	31	27	44
ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ A	30	25	42
ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ B	0	1	1
新型コロナウイルス感染症	8	9	12

遅くなりましたが3週間分の報告です。右下のグラフのように、インフルエンザAの報告が増えていますが、市内での大きな流行にはなっていません。しかし、施設内での小流行の報告がみられるようになりました。これから本格的な流行時期に入っていきます。クラスに一人インフルエンザの患者が出ると、数日後には周囲の5−6人がり患し、1週間でクラスの半数がり患し、2週間でクラス内の流行は終息します。体調不良の場合は、感染を広げないように無理せず休みましょう。

新型コロナウイルス感染症の夏の山（赤丸）は、ありませんでした。ウイルスがいなくなったわけではなく、インフルエンザの流行が終息するとコロナの流行が起こるのではと危惧しています。

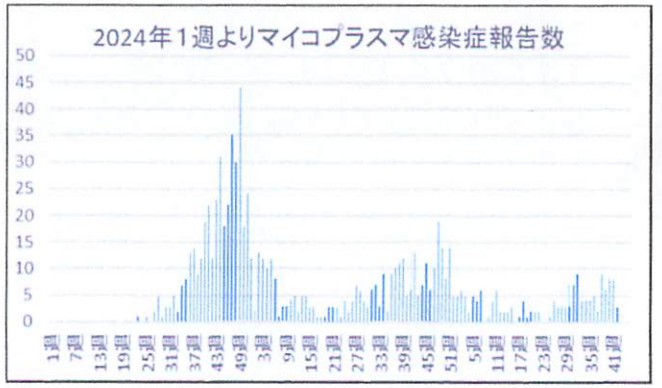
インフルエンザと新型コロナのワクチン接種が始まっています。

軽症化したり、入院を予防する効果があります。早めに接種しましょう。

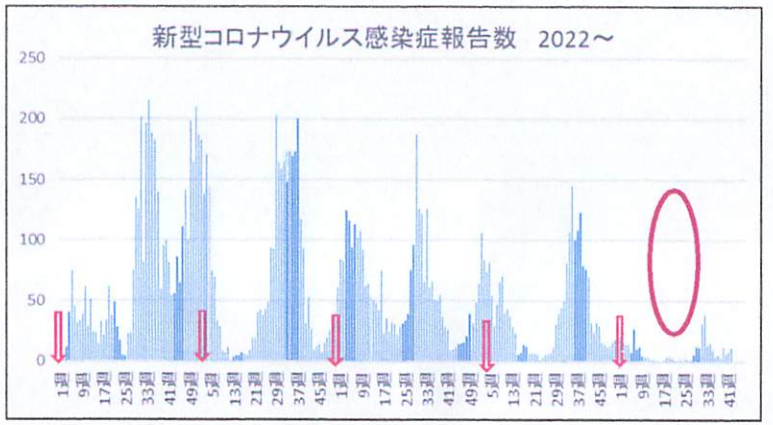
右のグラフはマイコプラズマ感染症の2024年からの報告数です。

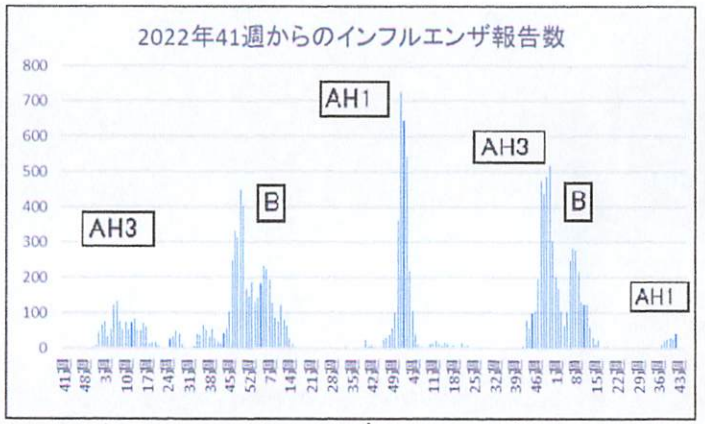
2016年から8年ぶりの大きな流行となりました。その後もだらだらと報告は続き、小中学生から幼児にも感染が広がっています。激しい咳と発熱が続く場合はマイコプラズマを鑑別する必要があります。

激しい咳の長引いた小学3年が百日咳でした。



熱がなくても咳をしている場合は、マスクの着用をお願いします。手洗い・換気に努めて下さい。





（感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。　http://miyakenaika.com ）

三宅内科小児科医院　三宅真砂子